

DC まめレポート

～運用環境振り返り編～

国内株式および国内債券市場 2020年7月～9月

運用先市場の状況

作成基準日 2020年9月30日

○国内市場

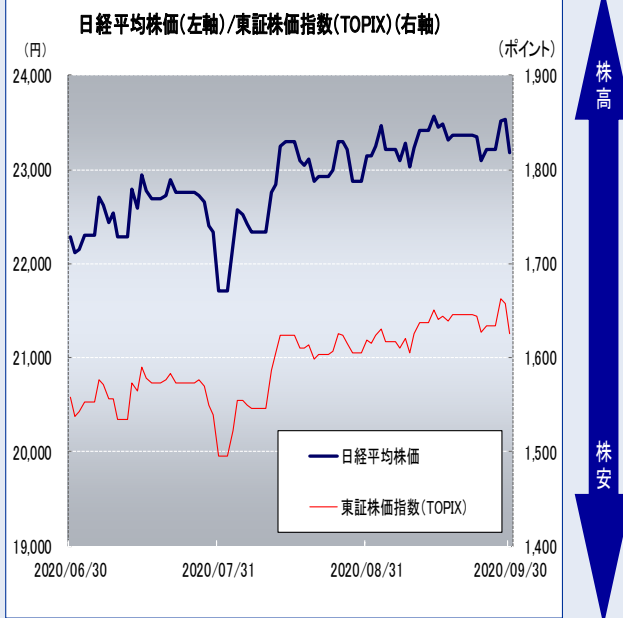
・株式市場

国内株式は上昇しました。

7月は、米国のハイテク株高などが支援材料となったものの、国内外における新型コロナウイルスの感染拡大が上値を抑えました。下旬は、国内企業の4～6月期決算が総じて低調であったことを受けて、下落しました。

8月は、米中の経済指標が改善したこと、国内企業の業績底入れ期待が高まったことなどから、上昇しました。下旬は、安倍首相の辞任表明を受けて今後の政策運営を巡る不透明感が増大したことが重石となり、一進一退の展開となりました。

9月は、狭いレンジ内でもみ合う展開となりました。9月末の配当権利取りや配当金再投資による買いが需給を支えたものの、米大統領選挙においてバイデン氏優位との見方から増税などが警戒され、月末に下落しました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

・債券市場

国内長期金利(10年国債利回り)はほぼ変わらずとなりました。

7月は、国債増発への警戒から、初旬に0.0%台半ばへ上昇しました。しかし、円高、株安傾向となるなか、長期金利は0.0%近辺へと低下しました。

8月は、社債発行が増加するなど供給圧力が増すなかで海外金利が上昇に転じたことから、国内長期金利も上昇に転じました。また、安倍首相辞任が報じられると長期金利は0.0%台半ばへと上昇しましたが、首相交代後も金融政策は大きく変わらないとの見方が市場に広がると、月末には金利上昇幅を縮小しました。

9月の長期金利は、追加財政政策への期待後退や新型コロナウイルスの感染再拡大などを背景に海外金利が低下したこともあり、低下基調となりました。中旬に行われた日銀金融政策決定会合では金融政策が維持されました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

運営管理機関 : 三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841

平日(月～金) 9:00～20:00 土日 9:00～17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

■当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。■当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また今後の成果を保証・約束するものではありません。■当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。

DC まめレポート

～運用環境振り返り編～

外国株式および外国債券、為替市場 2020年7月～9月

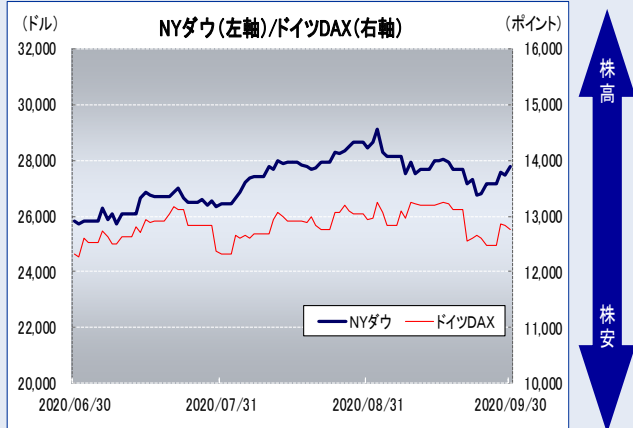
運用先市場の状況

作成基準日 2020年9月30日

○外国市場

・株式市場

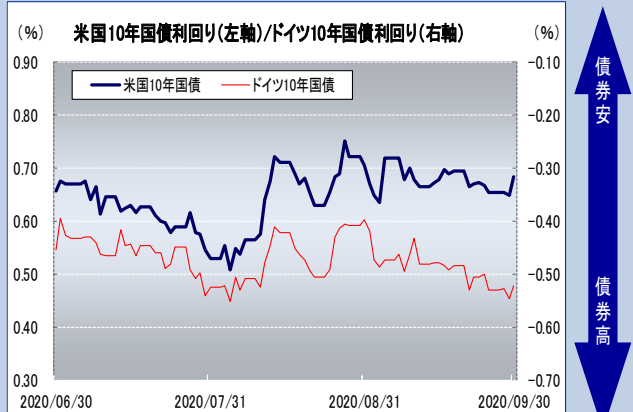
米国株式市場は上昇しました。
7月は、雇用統計などの経済指標が市場予想を上回ったことや、ワクチン開発に進捗がみられたことから上昇しました。その後、米中双方が互いに一部の領事館の閉鎖命令を出したことなどから、一進一退となりました。
8月は、大型IT関連企業を中心とした堅調な企業決算、追加景気刺激策に対する期待などから、月を通じて上昇基調となりました。
9月は、値上がりしていたIT関連銘柄を中心に利益確定の売りに押され、月初に大きく下落しました。新型コロナウイルスの新規感染者数が米国でも再び増勢を見せたことなどから、上値の重い展開となりました。
欧州市場も上昇しました。
英国のEU(欧州連合)からの合意なき離脱に対する不安や、大手グローバル銀行による不正な資金異動に関するニュースフローなどが嫌気される場面もありました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

・債券市場

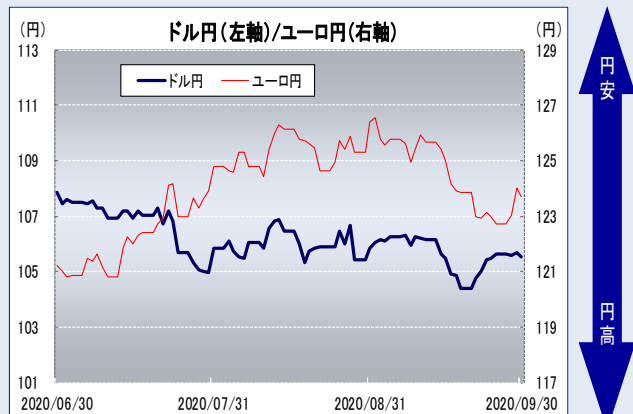
米国長期金利(10年国債利回り)はほぼ変わらずとなりました。
7月は、新型コロナウイルスの新規感染者数が再び増加するなか、米中関係悪化への警戒が高まったことなどを背景に低下基調を辿りました。
8月は、新型コロナウイルスの感染拡大ペースに鈍化の兆しが見られる中、株価の堅調推移や、雇用統計など市場予想を上回る経済指標などを背景に、金利は上昇しました。
9月は、FRB(米連邦準備制度理事会)理事のハト派(景気を重視する立場)的な発言などを背景に、金利は低下しました。
ドイツ長期金利(10年国債利回り)はわずかに低下しました。
ECB(欧州中央銀行)の継続的な国債買入れなどにより、ドイツ金利はレンジ推移となりました。9月後半には、ECB高官からハト派的な発言が相次ぎ、金利を下げました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

○為替市場

米ドル/円は円高、ユーロ/円は円安となりました。
7月は、月前半、米金利が低下するなか、米ドル安となりました。月後半は、米中関係悪化への警戒が高まる中、米金利のさらなる低下に伴って、急速な米ドル安となりました。一方、EUサミットでの復興基金に関する合意を好感してユーロ高が大きく進展しました。
8月は、ワクチンの開発期待や株価の堅調推移などを受けたリスクセンチメント(投資家心理)の改善が米ドルを支えました。ユーロも月前半はリスクセンチメントの改善からユーロ高となりましたが、月後半は欧州圏での新規感染者数の再拡大などから上値が抑制されました。
9月は、米国株価の軟調な推移から一時的に米ドル安となりましたが、月末にかけては株価が下げ止まるなか、値を戻しました。一方、欧州圏の感染拡大懸念や英国とEU(欧州連合)のFTA(自由貿易協定)交渉の難航などから、ユーロ安となりました。月後半には、ECB(欧州中央銀行)高官からユーロ高をけん制する発言が相次いだこともユーロを下げました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841
平日(月～金) 9:00～20:00 土日 9:00～17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

■当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。■当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したのですが、その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また今後の成果を保証・約束するものではありません。■当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。